

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 基本的な生活習慣を身につけ、自己研鑽に努め、宗教心の薫育、奉仕活動への参加を促す。	① 基本的な生活習慣の定着を目指す。	総務 教務 生徒指導	遅刻ゼロデー・服装マナーアップ グッドマナーキャンペーンなどの啓発活動を通じ、クラス月間皆勤 個人年間皆出席を増やすと共に服装容儀の向上に努力している。	【努力指標】 生徒が基本的な生活習慣が定着していると自己評価できるか。	基本的な生活習慣が A 十分定着している B まあまあ定着している C あまり定着していない D 定着していない	C・D評価が15%以上 で指導体制を強化する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	② 生徒の読書意欲を高め図書館の貸出冊数を増加させる。	図書館 総務	利用推進活動を目に見える形でPRしていく。全校での読書週間を設けさらに利用を促す。	【努力指標】 年間最多の貸し出し者には図書館賞を授与している。生徒の利用が増加したか。	全校生徒中、貸出者数の割合が A 30%以上 B 30～20% C 20～10% D 10%未満	D判定は意欲を促進する内容と活動を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	③ 本校の柱である宗教教育についての認識を深める研修の機会を持つ。	宗教科 第1学年	一年生が10月、東本願寺にて1泊研修を行い、よりよく「生きること」を学ぶ。	【努力指標】 講話をはじめ研修が有意義と感じたか。	上山研修は A 十分満足できた B だいたい満足している C あまり満足していない D よく分からない	C・D評価が15%以上 において内容を検討する。	心の教育に資する。 生徒に対してアンケートを実施する。
	④ 宗教の授業や行事(花祭り、報恩講)を通して、自己の内面を省みることを目標とする。	宗教科	宗教の授業や花祭り、報恩講等の行事を通して学んだことは、教科文集「預流」にまとめられている。	【成果指標】 授業や宗教行事が、自分を見つめる時間となっているか。	宗教教育で自分の生き方を考えることが A 非常によくできた B まあまあできた C あまりできなかった D 全然できなかった	C・D評価が15%以上 において内容を検討する。	心の教育に資する。 生徒に対してアンケートを実施する。
	⑤ 各種ボランティア活動に積極的に参加し、奉仕の精神を育成する。	総務(管理) 生徒会 ボランティア	地域各種のボランティア活動への参加を呼びかける。全校体制やホーム、部活動ごとの活動も積極的に行えるよう求める。	【成果指標】 多くの生徒が積極的にボランティア活動に参加できたか。	ボランティア活動に参加した回数 A 年間3回以上 B 年間2回 C 年間1回 D 年間0回	C・D判定が25%以上 において内容を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 基礎学力の向上とともに学習意欲の涵養に努める。特に進路に対する個人指導を重視し、新たな自己の才能の伸長を促す。	① 各教科において、興味、関心、意欲を引き出す授業の確立に向けて、教材の精選と指導法の工夫改善に努める。	教務(研修) 教科	興味、関心、意欲を持たせる授業を目指し、研究授業や、教師間の授業参観を行う。中学校教諭対象に公開授業を開催し、相互理解を深め指導力の向上に努める。	【努力指標】 授業は分かりやすく工夫されているか。	分かりやすさを実感している生徒の割合 A 大変工夫されていると感じる B まあまあ工夫されていると感じる C あまり工夫されていないと感じない D 全く工夫されていると感じない	C・D評価が25%以上 において教務課を中心に改善策を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	② 基礎学力の確認、向上とともに学習習慣を身につけさせる。	教務 教科	「学び直し」を実施し、基礎学力の向上を目指しながら、個々の躓きを確認し、学習意欲を向上させる。	【成果指標】 生徒各人に基本問題集を渡し、学期始めに確認テストを行う。	確認テストを達成している生徒の割合 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・D判定においては 実施内容・指導方法を検討する。	基本問題集は 全教科を含む。
	③ 普通科の情報ビジネス、福祉ボランティア、進学、特進の各コースと体育科の特色が顕在化するように研究と指導に励む。	教務 各コース	各科、コースにおいて級、資格の合格率を高めるために、指導の工夫、コースによっては実習、または7限授業と特色ある授業に努めている。	【満足度指数】 授業が分かりやすく学習に意欲がわき、学力が向上し、各種検定や資格を取得できたか。	取り組みについての生徒の自己評価 A 意欲的に取り組むことができた B まあまあ取り組むことができた C あまり意欲的に取り組めなかった D 全く意欲的に取り組めなかった	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	生徒に対して アンケートを実施する。
	④ 各学年において、一貫したキャリア教育を通して、職業観や勤労意欲の育成に努め、よりよい進路選択の一助とする。	進学 就職	各学年において進路(進学・就職)のガイダンスや外部講師の講話、大学見学や企業見学・実習等の研修を行っている。	【努力指標】 各学年で実施されたキャリア教育において、生徒自身が、有意義なものと感じたか。	進路選択に A 非常に役立った B まあまあ役立った C あまり役立たなかった D 全然役立たなかった	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	生徒に対して アンケートを実施する。
	⑤ 生徒、保護者の志望を把握し、きめ細かなガイダンスを実施し、個人面談・家庭訪問を行う。	教務 学年	PTA活動や学校公開を通じて多くの保護者と接し、信頼関係の構築に努めている。1、2学期の通知表渡しの際、全学年で個人面談を行っている。	【努力指標】 個人面談で担任が生徒の進路に関する志望や現状を十分把握しているか。	保護者が希望する面談回数 A 年3回以上 B 年2回(現状維持) C 年1回 D 少なくともよい	A・C・Dのいずれかの 回答が25%以上の 場合、面談の回数・ あり方を検討する。	PTA総会に参加 した保護者に対してアンケートを 実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 地域社会に根差した学校を目指し、生徒指導の充実を図るため、教職員間(担任・教科・部顧問)及び保護者、地域住民との連携「報・連・相」を徹底する。	① 地域交流及び教育活動の一環として、「谷高ふれあいレクレーション」を開催し、生徒はボランティア活動として主体的に参加する。	総 務 保健体育 生徒会 PTA	地域(町内)の参加者が本校に集まり、生徒はボランティアで補助役員にあたり活動している。	【成果指標】 地域住民の参加と生徒の理解が得られているか。	地域に A よく貢献した B まあまあ貢献した C あまり貢献しなかった D 全く貢献しなかった	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	9月開催 PTA役員へのアンケートを実施する。
	② 学校周辺町内の全校生徒による清掃作業。 「わが町美化ピカ隊」への参加	総 務(管理) 全学年 (PTA)	各クラス毎に町内の清掃奉仕作業を年間に3回行っている。	【努力指標】 ゴミ拾い等の清掃が確実に行われ、積極的に取り組まれているか。	清掃活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた B ある程度取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全然取り組めなかった	C・D評価が30%以上 において内容を検討する。	生徒に対して アンケートを実施する。
	③ 交通マナー向上のための活動に努力する。	生徒指導 生徒会	登下校時における自転車マナーアップおよび、下校時の蛍光タスキ着用義務を徹底させている。 毎年、1年生を対象に交通安全教室を実施している。	【成果指標】 交通規則を遵守して、マナーを守っているか。	交通マナーについての生徒の自己評価は A よく守っている B まあまあ守っている C あまり守っていない D 全く守っていない	C・D判定が10%以上 で指導体制を強化する。	生徒に対して アンケートを実施する。
	④ 危機管理意識を高め、事故防止と発生時の対応に万全を期す。AED講習会も開催している。(AED2台の設置) 「三大訓練の実施」	総 務 保健体育 生徒指導	教職員の意識は喚起されつつあるが、緊急時の対応訓練(通報、消火、避難)は常に必要である。	【成果指標】 不慮の事故防止のための研修・実施訓練を行っている。	危機管理に関する校内教員研修・訓練を A 年間3回以上行なった B 年間2回行なった C 年間1回行なった D 全く行わなかった	C・Dにおいては日程・内容を検討する。	危機管理として 防災訓練を6月・11月、AED講習を5月に予定。
	⑤ 学校行事を通して、PTAとの連携を図り生徒たちの学校生活を見てもらう。	総 務 生徒会	強歩大会での補助・豚汁提供や文化祭での模擬店の出店、交通安全指導をしていただいている。 母親委員会では講演会「教育を考える集い」を実施している。	【成果指標】 保護者が積極的に学校行事に参加する。	学校と保護者の連携が A かなり深まった B まあまあ深まった C あまり深まらなかった D 全く深まらなかった	C・D判定が15%以上 で日程・内容を検討する。	PTA役員への アンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 生徒会活動、部活動への参加意識を高め、自主・自立・協調の精神を育成し、心身の健全な発達を目指す。	① 新入生の部活動全入部体制と活動内容の充実・向上を図る。	生徒会 第1学年 学年	進路選択や進路先から、コミュニケーション能力を問われる事が多く、部活動がその一役を担っている。	【満足度指数】 部活動が充実しているか。	部活動に満足している A かなり満足している B まあまあ満足している C あまり満足していない D 全く満足していない	C・D評価が10%以上 において指導体制を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	② 生徒が主体となる委員会活動 球技大会・体育祭・文化祭等を活性化させる。	生徒会 学年	生徒会執行部を中心に主体的に活動している。	【成果指標】 生徒が生徒会活動の主旨を理解し、活性化しているか。	生徒会活動について A よく活動している B まあまあ活動している C あまり活動しているとは思わない D 活動しているとは思わない	C・D評価が30%以上 において活動のあり方を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	③ GS隊による挨拶・交通安全活動	生徒会	生徒会でGS隊を結成し、登校時に挨拶・交通安全を呼びかける活動を2カ所で通年行っている。	【努力指標】 GS隊の活動が確実に行われ、積極的に取り組まれているか。	GS隊活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた B ある程度取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全然取り組めなかった	C・D評価が30%以上 において活動のあり方を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。
	④ 鑑賞や創作を通して情操陶冶と健やかな人間形成に役立てる。	生徒会 国語科	観劇・コンサート鑑賞や校内での短歌・俳句大会をそれぞれ年1回実施している。	【満足度指数】 鑑賞や創作に意欲的に取り組めたか。	豊かな心を育てるのに A かなり役立った B まあまあ役立った C あまり役立たなかった D 全く役立たなかった	C・D評価が25%以上 において活動のあり方を検討する。	生徒に対してアンケートを実施する。